

海の中道海浜公園整備・管理運営プログラム(案)



令和3年5月

国土交通省 九州地方整備局

— 目次 —

1. 全体計画及び開園状況等	1
(1) 全体計画	1
(2) 供用の経緯	3
(3) 主な供用施設	4
(4) 利用の状況	5
(5) 公園のストック効果	5
2. 令和7年度までの整備及び管理運営の方針等	8
(1) 令和7年度までの整備・管理運営の重点事項	8
(2) 整備方針	10
(3) 管理運営方針	12
(4) 事業効果	13

1. 全体計画及び開園状況等

(1) 全体計画

本公園は、北部九州における広域的レクリエーション利用、「白砂青松」の良好な自然環境の保全を目的に、都市公園法第2条第1項第2号イに基づき設置する国営公園です。

玄界灘と博多湾を隔てて志賀島へ伸びる半島「海の中道」中央部（福岡県福岡市東区西戸崎）に、計画面積約539ha、南北方向0.5～1km、東西方向約6kmの区間にわたって位置する我が国5番目の国営公園として、昭和51年度に事業着手しました。

戦後、米軍基地として使用されていた跡地を活用した地形は平坦で、海浜地特有のクロマツ林を主体とした海岸線を有し、玄界灘側は自然海岸による海岸植物が分布しています。また、福岡市中心部から本公園へは自家用車のほか、鉄道、バス、船等によりアクセスが可能で、所要時間は、鉄道で約30～45分、バスで約60分、船で約20分となっています。

特色ある地形と、歴史的、文化的背景に留意し、自然環境を活かした自然学習の場の提供や、公園内の芝生、花、池などの魅力的なランドスケープを形成し、魅力あふれる空間を創出することで、レクリエーション需要の増大と多様化に対応しうる国営公園をめざし、誰もが安全・安心・快適に利用していただけるよう整備・管理を進めています。

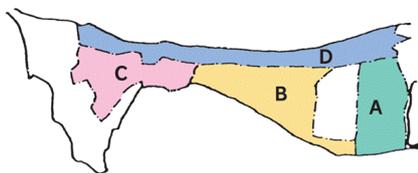


公園位置図



公園へのアクセス

●公園のゾーニング

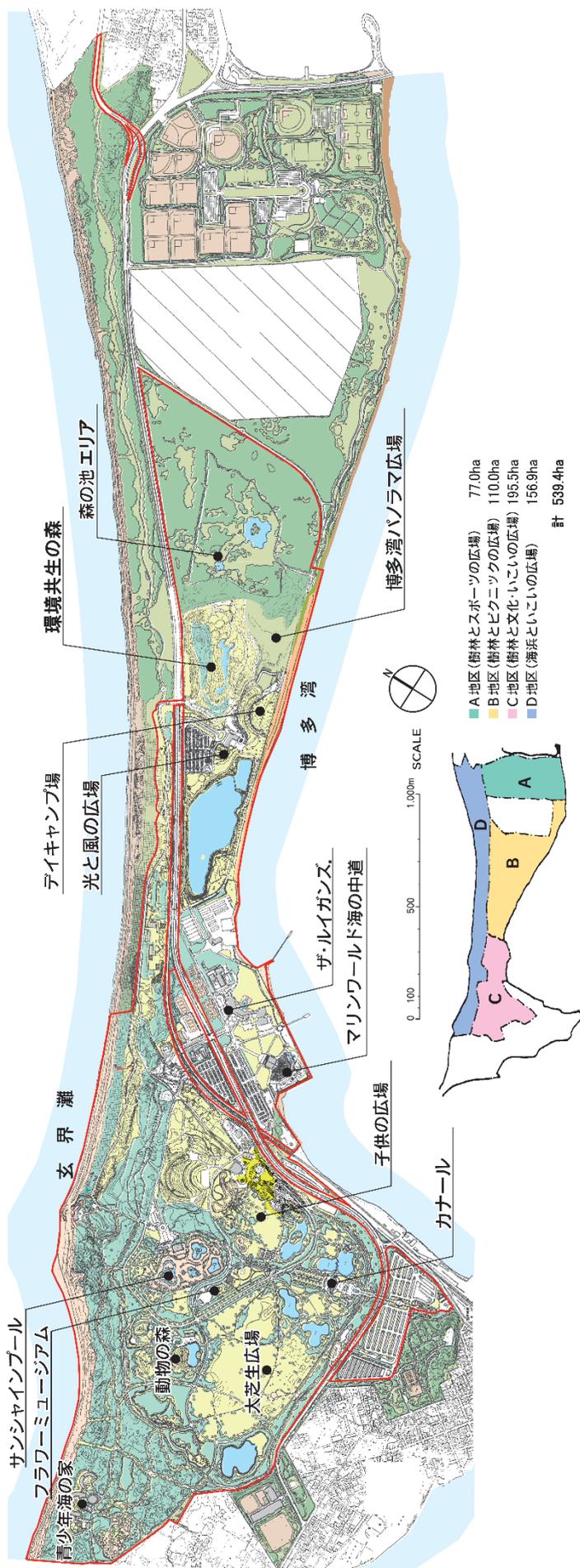


- A 地区（樹林とスポーツの広場）
- B 地区（樹林とピクニックの広場）
- C 地区（樹林と文化・いこいの広場）
- D 地区（海浜といこいの広場）

本公園は、「緑の樹林」「碧い海」「輝く太陽」を基本として、全体を4つの地区に分けて整備を推進しています。

- A 地区：運動やスポーツに重点を置くエリア。現在は、福岡市が条例に基づき管理している「雁の巣レクリエーションセンター」が位置
- B 地区：環境との共生、自然を活かしたレクリエーションを主体としたエリア
- C 地区：松林の林間と大面積の芝生広場でのびのびと自然を楽しむとともに、多種多様な施設でアクティブに楽しむエリア
- D 地区：玄界灘側の海浜部で、主に既存のマツ林の保全を行うエリア

海の中道海浜公園基本設計図



令和3年3月31日現在の供用区域

(2) 供用の経緯

海の中道海浜公園の設置は、昭和47年に米軍博多基地（キャンプ博多）が返還されたことに端を発しています。基地跡地が良好な自然環境を有していたこと、また、北部九州を中心とする広域圏域のレクリエーション需要の増大に対応する施設が必要とされていたことから、大規模都市公園として昭和50年度に都市計画決定されました。

その後、昭和51年度より整備を進め、昭和56年10月に「西口広場」、「大芝生広場」、「動物の森」を含む約59haを開園しています。その後も整備が完了した区域より順次開園しており、令和2年度末現在で、約350ha（計画面積の約65%）が開園しています。

年度	項目	供用面積
昭和47年度	米軍博多基地返還（515.2ha）	
昭和50年度	都市計画決定	
昭和51年度	事業着手	
昭和56年度	C地区 西口広場、大芝生広場、動物の森供用開始	59ha
昭和58年度	C地区 サンシャインプール、野鳥の森供用開始	73ha
昭和59～61年度	C地区 子供の広場（一部）供用開始	102ha
昭和62年度	C地区 研修宿泊施設、子供の広場（一部）供用開始	116ha
平成元年度	C地区 マリンワールド（Ⅰ期）、C地区 いこいの森（一部）、D地区 青少年海の家供用開始	188ha
平成7年度	C地区 マリンワールド（Ⅱ期）供用開始	189ha
平成11年度	C地区 いこいの森（一部）、森の家供用開始	206ha
平成13年度	B地区 光と風の広場、デイキャンプ場供用開始	230ha
平成16年度	D地区 潮見台エリア供用開始	249ha
平成21年度	B地区 環境共生の森供用開始	265ha
平成22年度	D地区 玄界灘海浜部中央部及び西部供用開始	292ha
平成25年度	C地区 中央駐車場供用開始	294ha
平成28年度	B地区 博多湾パノラマ広場供用開始	298ha
令和元年度	C地区 ワンダーワールドA駐車場供用開始	298ha
令和2年度	B地区 森の池エリア供用開始	350ha
供用面積 計		350ha



博多湾パノラマ広場



森の池エリア

(3)主な供用施設

昭和56年に開園し、開園エリアを順次拡大しながら多種多様な利用者ニーズに応えられるように現在も施設を整備しています。

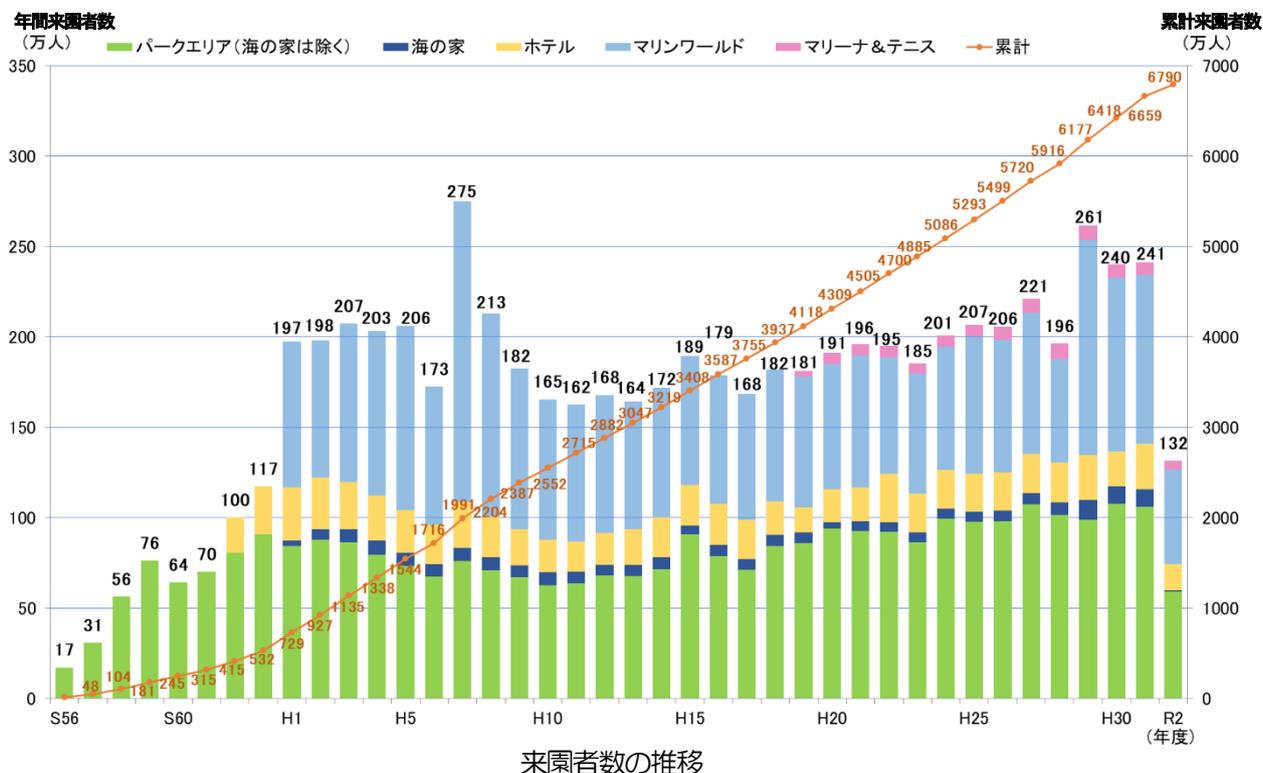
令和2年度には、マツ林を主として自然散策、自然観察が楽しめる「森の池エリア」(51.8ha)を新たに供用開始しています。

<h4>C地区(パーク)</h4>		
<h4>動物の森</h4> <p>動物と直接ふれあうことのできる動物園。</p> 	<h4>大芝生広場</h4> <p>広大な芝生の広場は花修景や各種スポーツ大会など、様々なレクリエーションが楽しめる空間。</p>  	<h4>子供の広場</h4> <p>子供たちのための遊具などを備えた遊べる空間。</p> 
<h4>サンシャインプール</h4> <p>6つの多様なプールを備える西日本最大級のレジャープール。</p> 	<h4>カナール/フラワーミュージアム</h4> <p>水と緑が織りなす優雅な空間・屋根のない美術館をイメージした花の空間。</p>  	
<h4>C地区(リゾート)</h4>	<h4>B地区</h4>	
<h4>マリンワールド/ホテル ザ・ルイガンズ</h4> <p>海洋生態科学館(マリンワールド)は平成28年4月より、研修宿泊施設(ホテル)、テニスコート、マリーナは平成30年4月より、それぞれ20年間のPFI事業者による管理運営事業がスタート。マリンワールドはリニューアルにより利用者が大幅に増加。</p>  	<h4>博多湾/パラマ広場/光と風の広場/デイキャンプ場</h4> <p>博多湾を挟んで福岡市街地を一望でき、様々なイベントに活用できる芝生広場(平成28年度供用)やバーベキューなどが楽しめる施設を備えたエリア。</p>  	
<h4>B地区</h4>	<h4>D地区</h4>	
<h4>森の池エリア</h4> <p>マツ林を主とする樹林、不定期に現れる「幻の池」など、自然散策や自然観察が楽しめる空間(令和2年度供用)。</p> 	<h4>青少年海の家</h4> <p>雄大な玄界灘に面し、研修・宿泊棟やキャンプ場などを有する野外活動拠点施設。</p>  	<h4>玄界灘海浜部</h4> <p>海浜部の絶景のサイクリングコース。</p> 

(4)利用の状況

昭和56年に開園以降、施設の充実に伴って来園者数は年々増加し、マリニワールドが完成した平成7年度に歴代最多となる275万人の年間来園者数を記録し、平成29年度には歴代2番目となる約261万人の方々に来園いただきました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、令和2年度末までの累計来園者数は約6,790万人に達しています。



(5)公園のストック効果

1) 防災性向上効果

公園内の広場や駐車場など約30ha（約15万人分の避難地に相当）が福岡市の地区避難場所、広域避難場所に指定されており、地震等の災害時に多くの避難者を受け入れることができます。



避難場所となっている
ホテル ザ・ルイガンズ 前の広場



避難場所となっている
西駐車場

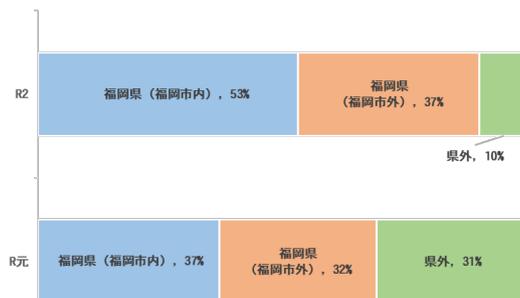
2) 健康レクリエーション空間提供効果

- 年間200万人以上が訪れる広域レクリエーション拠点を創出

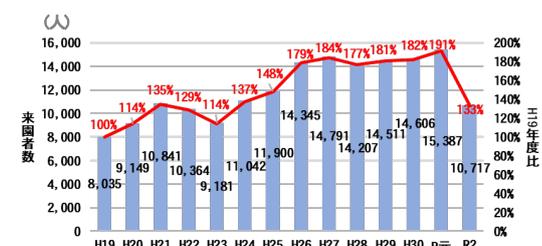
時代に応じて多様な魅力を提供することで、福岡市を代表するレクリエーション拠点として定着しており、県内・県外から広域的に利用される施設となっています。

また、公園を訪れるすべての人が利用しやすいように公園全体のユニバーサルデザイン化を平成19年から進めています。利用の目安の情報発信や施設整備（トイレ、車いす対応、授乳室、多言語表記等）を計画的に実施し、全ての人々が自然とふれあい、心身のリフレッシュができる場を提供しています。

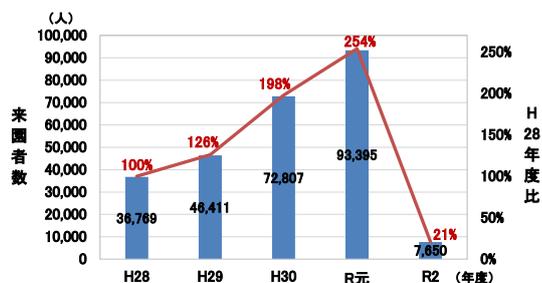
その成果として、障がい者の来園者数は、令和2年度を除く過去6年間継続して、平成19年度比で約1.8～1.9倍に達していました。また、訪日外国人観光客の来園者数も近年は増加傾向にあり、令和元年度には、統計を取り始めた平成28年度比で約2.5倍に達しました。しかし、令和2年度はいずれも新型コロナウイルス感染症の影響を受け、来園者数が大幅に減少しました。



※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で県内利用の割合が増加
来園者の居住地（R元年～R2年度）



障がい者来園者数推移（H19～R2年度）



訪日外国人観光客来園者数推移（H28～R2年度）

3) 景観形成・文化伝承効果

- 「日本の白砂青松100選※」に選ばれる松原を保全・育成

（※）（社）日本の松の緑を守る会が選定した100ヶ所の日本の景勝地

海の中道の景観を特徴づけるクロマツ林を保全・育成し、海の中道固有の「白砂青松」の景観を保全しています。これまでの取組が、本公園区域を含む海の中道の松原の「日本の白砂青松100選」の選定につながっています。



白砂青松の公園景観

4) 環境維持・改善効果

- ・新たに10ha（サッカー場10面分（※））以上の緑を創出

（※）「スタジアム標準」（JFA）のフィールドの大きさ：125m×85m=10,625㎡をもとに算出

開園以来、D地区の松の植林やB地区における新たな森づくり等の自然環境の保全・創出に取り組んでおり、少なくとも約11.7haの緑地が新たに創出されています。

D地区のマツ林の植栽効果



開園当初の青少年海の家付近
（1981年（S56年））



計画的なマツの植栽
（青少年海の家上空写真）

概ね3.4haの緑を新たに創出



青少年海の家付近
（2021年（R3年））

B地区の森づくりの効果



開園当初の環境共生の森付近
（1981年（S56年））



植樹の様子

概ね8.3haの緑を新たに創出



環境共生の森付近
（2021年（R3年））

2. 令和7年度までの整備及び管理運営の方針等

(1) 令和7年度までの整備・管理運営の重点事項

本公園は、海の中道固有の白砂青松の自然環境の保全、北部九州における広域的レクリエーションの拠点の創出等を目的としてこれまで整備・管理運営を推進し、年間約260万人の方々に利用される公園となっています。

近年では、園内施設のユニバーサルデザイン化を着実に進めてきたことで、全ての方が安全・安心に利用できる環境が整いつつあり、障がい者や訪日外国人観光客の来園が増加しています。また、PFI事業に加え、平成29年に創設された公募設置管理制度（Park-PFI）により、B地区を中心に新たな魅力の創出に取り組むとともに、園内の新たな移動手段となり得る電動キックボード導入の実証実験を行うなど、官民連携により公園の魅力や利便性の向上につながる取組を進めてきています。

一方で、少子高齢化、人口減少の進行やライフスタイルの多様化など、様々な社会情勢の変化が生じており、これらの社会情勢やニーズの変化等に柔軟に対応しつつ、公園の魅力を維持・継承していくことが必要とされています。

このため、今後もより多くの方に利用いただき、時代に応じた役割を果たすことができる公園であり続けるため、また、公園が中心となって海の中道周辺地域の更なる発展も後押しするため、「うみなかビジョン2030 ～国営海の中道海浜公園の将来像～」(令和3年3月)に基づき、次に掲げた事項に重点を置いた整備・管理運営を推進します。

【令和7年度までの整備・管理運営重点事項】

1. 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

本公園の多様な施設、豊かな自然を活用してより一層多様な楽しみ方を提供することで、本公園を訪れる方が元気になるとともに、本公園の存在が周辺地域の一層の発展、活性化に寄与することを目指します。

具体的には、令和2年7月に設置した有識者、園内施設の運営者、福岡県・福岡市、公園管理者をメンバーとする「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を活用した継続的な魅力向上や、西戸崎や志賀島、アイランドシティ等公園の外の周辺地域との連携をより一層推進し、海の中道ならではの楽しみ方や飲食サービスの提供、公園を起点とした地域観光への誘導などを通じて、地域活性化に貢献していきます。

2. 海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園

江戸時代までは人も住めず、植物も生えない不毛の砂地だった海の中道を、花・緑豊かな公園として整備してきたこれまでの取組を後世に継承し、白砂青松の固有の景観を保全するとともに、その価値、大切さを伝えるため、玄界灘に面したD地区を中心にマツ林の育成・保全に取り組みます。

また、公園をフィールドとした環境学習を推進するため、環境共生の森や森の池等を活用した環境学習プログラムの一層の充実、ボランティア等と連携した継続的な森づくり等に取り組みます。

3. 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

福岡市の中心部に近接したみどり豊かで開放的な空間が、心豊かで健康的なライフスタイルを支える場、新型コロナウイルス感染症対策等に伴う運動不足、ストレスを解消する場として活用されるよう、自然を活かした健康プログラムの充実、感染症対策の徹底等による利用者の安全・安心の確保等を推進します。

4. 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

少子高齢社会の進展に伴い、今後増加するシニア世代が公園を通じて社会とつながる場となる、活躍できる場となるよう、多様なニーズに対応する多様な学びのメニュー、市民参加のメニューを充実させます。

また、全ての人が目的に応じて園内を安全に、かつ円滑に移動し、楽しめるよう、ユニバーサルデザインに基づくハード面の改修、ソフト面の充実を推進するとともに、老朽化施設の計画的な改修、耐震化等による安全・安心の確保に取り組みます。

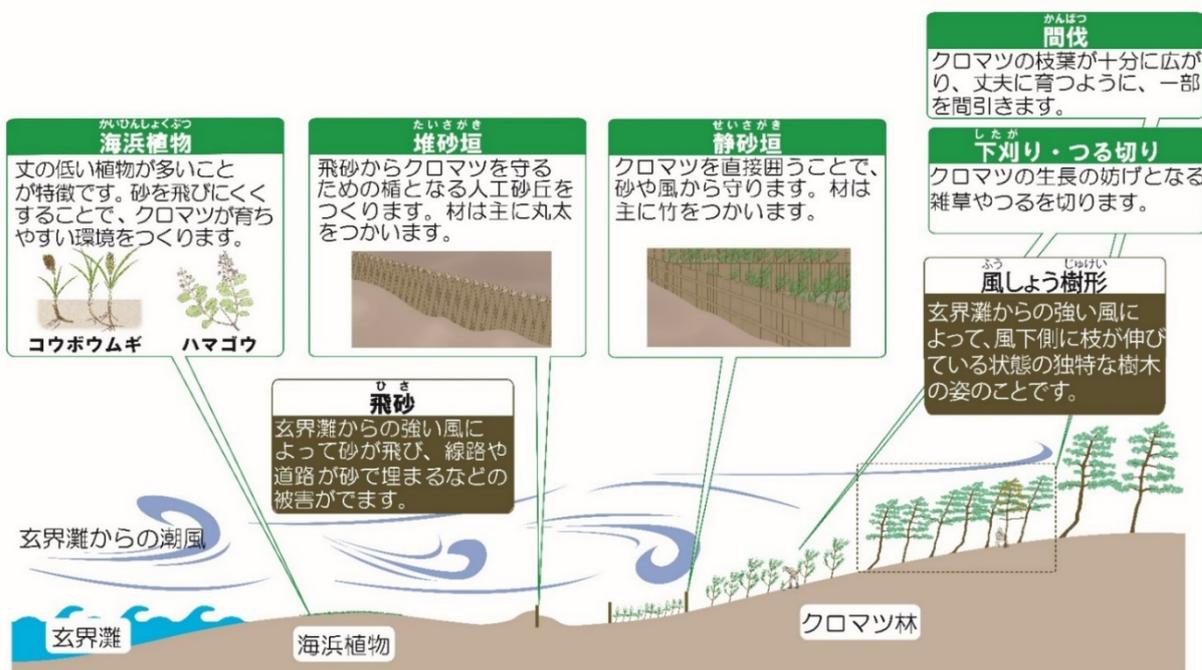
(2) 整備方針

1) 未供用区域の整備等における海の中道固有の「白砂青松」の景観の保全・再生

海の中道海浜公園は、国内最大級の「砂の道」の上であり、原風景を織りなす「白砂青松」の景観を守るため、これまで継続的に松枯れ対策や松林再生を推進してきました。

未供用区域の多くは海浜部に位置しており、今後の供用に向け、松林の保全・再生に留意して整備を進めます。また、今後も公園全体で松林を後世につなぎ、「海の中道」の環境や地域住民の生活を守るとともに、地域の資源を活かした、ここにしかない、美しく風格のある松林風景の創出を目指します。

具体的には、令和7年度までは、未供用区域のうち主にD地区の玄界灘海浜部において、将来的な松林の育成に向けた基盤整備や植栽等を、市民やNPO団体等とも連携して推進します。また、公園内の松林において、松の植林や薬剤の樹幹注入、薬剤散布等の松枯れ対策、間伐等による密度管理を行います。



海岸林（クロマツ林）の育成イメージ



樹幹注入の様子



機械による薬剤散布



人力による
薬剤散布
(機械の入れないところ)



伐採前



伐採後

2) 海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供

既にファミリー層の利用者が多いC地区は遊具の更新・充実等によりその魅力をより強化し、Park-PFI事業が始まるB地区は大人向けのエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進することで、多様な来園者層に多様な楽しみ方を提供します。

具体的には、B地区に新たな滞在型レクリエーション拠点が整備され、事業開始できるようPark-PFI事業を担う民間事業者との連携を推進します。また、B地区とC地区の間の園内移動を円滑にするためにターミナル拠点として重要となる海の中道駅周辺エリアの利便性、魅力を向上させる取組を推進します。

海の中道駅口では、電車、バス等の待ち時間を快適に過ごすための休憩所や飲食物販施設の導入、災害時の避難場所の確保、初めて来園された方でも迷わない分かりやすい動線への再整備、多言語表記による案内の強化、他のエリアと差別化した新たな景観の創出等を行います。



円滑な園内移動のためのターミナル拠点としての海の中道駅口

大人が楽しめる場の整備 (B地区)

3) ユニバーサルデザイン化、新技術の活用、園内交通の充実等による利便性の向上

本公園の来園者層は、子供から高齢者まで、また障がい者や訪日外国人観光客など幅広いため、全ての方がより円滑・快適に利用できる環境を整え、利便性を高める取組を進めます。

具体的には、ユニバーサルデザインによる園路、トイレ、案内サイン等の改修に引き続き取り組むとともに、ICT技術の活用やキャッシュレス決済の導入等を推進します。

また、園内をのんびり散策したい方、サイクリングを楽しみながら移動したい方、バス等で快適に移動したい方など、多様な来園者がそれぞれの目的に応じて園内を円滑に移動し、楽しむことができるよう、サイクリングコース・園内バス運行ルート等の改善、パーソナルモビリティ等の新たな移動手段の導入に向けた検討など、園内交通の充実に向けた取組を推進します。さらに、繁忙期における駐車場への入場待ちの車による渋滞の発生を改善するため、駐車場の駐車台数を増加させる等の対策を進めます。



サイクリング



車いす利用者のサイクリング



新たな移動手段の導入
(電動キックボード)

4) 施設の改修・更新による安全・安心の確保、防災機能の強化、環境負荷低減等の推進

本公園は、昭和56年の当初開園から概ね40年が経過し、当初に整備した施設を中心に施設の老朽化等が進行していることから、長寿命化計画に基づく計画的な施設の維持・更新を引き続き推進し、維持管理コストの縮減を図りつつ、来園者の安全・安心を確保します。

また、施設の更新にあたっては、現在の利用状況や将来的な利用見込み等に応じて、遊具やレストハウスなど施設の集約・再編や機能向上をあわせて行うことで、公園の魅力やサービス水準を維持・向上させていきます。

さらに、改修・更新のタイミングにあわせて、施設の耐震化等により災害時の避難場所としての機能を強化するとともに、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用により環境負荷の低減を進めます。



老朽化した上水管



案内サインの更新とあわせて機能向上（四か国語表記等）

(3) 管理運営方針

1) 多様な主体の連携による海の中道全体の活性化

「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を活用し、マリンワールド海の中道やザ・ルイガンズ、等を運営するPFI事業者、青少年海の家を運営する指定管理者、Park-PFI事業を実施する民間事業者など園内の関係機関がそれぞれの強みを活かしつつ、連携して公園の魅力をより高める取組を推進します。

また、西戸崎や志賀島等公園の外の周辺地域との連携をより一層推進し、地域全体を活性化するため、公園と地域関係者が一体となって地域の魅力を発信するポータルサイトの設置や公園を起点とした地域観光への誘導などを推進します。



志賀島へのサイクルツーリズム

2) 豊かな自然を活かした環境学習

自然豊かな公園を環境学習のフィールドとしてより一層活用するため、環境共生の森におけるボランティア等と連携した継続的な森づくり、森の池における自然観察など、それぞれの場所の自然を活かした環境学習プログラムを充実させます。



ボランティア講習会の実施

また、福岡市が推進している、花をツールとした市民・企業との共創により、まちの魅力や価値を高める取組との連携など、花や緑に関するイベントの実施等により、自然や環境に対する意識を高めるための普及啓発を推進します。

3) 健康的なライフスタイルを支える場、安全・安心な空間づくり

自然を活かした健康プログラムの充実など、みどり豊かで開放的な空間で楽しみながら運動できる、身体を動かすことができる機会を提供し、健康的なライフスタイルを支える取組を推進します。

また、新型コロナウイルスをはじめとした感染症の感染防止対策に引き続き取り組み、安全・安心に利用できる空間づくりを推進します。



自然を活かした健康プログラム

4) 多様な人の多様な学び、活躍を支える場づくり

公園を訪れる全ての方に、それぞれの目的等に応じた多様な楽しみ方を提供できるよう、ファミリー層向けの学習イベントの実施、シニア世代の特技を活かしたボランティア活動メニューの拡充など多様な人の学び、活躍を支える場となるための取組を推進します。



昔遊び指導ボランティア

(4)事業効果

- 松林の育成・保全を行うことで、海の中道固有の「白砂青松」の自然と景観が後世へ継承されます。
- 海の中道駅口に新たに休憩所や飲食物販施設が再整備され、ユニバーサルデザインによる園路等の改修がより一層推進され、バスや自転車等の園内移動手段が充実することで、これまで以上に快適に公園を楽しみ、円滑に移動できるようになります。
- 園内施設の集約・再編にあわせた魅力向上、耐震化等を行うことで、維持管理コストを縮減しつつ、来園者の安全・安心の確保、災害時の避難場所としての機能強化、サービス水準の継続的な向上が図られます。
- 多様な主体が連携して海の中道の魅力を一体的に発信することで、広域的レクリエーション拠点としての魅力の強化、公園周辺地域の観光客の増加につながります。
- 豊かな自然を活かした環境学習をより一層推進することで、自然や環境の大切さを学ぶ拠点としての機能が強化されます。
- 海の中道の自然を活かした健康プログラムや多様な学びのメニュー、ボランティアの活動メニューをより一層充実させることで、健康的なライフスタイルを支える場、多様な人の学び、活躍を支える場としての機能が強化されます。

◆ なお、本プログラムは、公園整備・管理を巡る社会情勢の変化、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。